

令和6年度産業教育常任委員会行政視察研修政策提言書

1. 公園施設の維持整備について

人口 3,300 人の群馬県川場村にある、道の駅「川場田園プラザ」は、年間 200 万人もの観光客が訪れ、そのリピート率は7割にのぼる。

「川場田園プラザ」では、施設内が人工芝で整地されており、芝の上で多くの来場者がくつろいでいた。人工芝は、雨上がりであっても水はけがよく、一年を通し緑を維持することができる。さらに、草が生えないことから、除草の手間や芝刈りなどの管理費用が削減されるものと推察できる。

そこで、以下について提言する。

- (1) 本町の公園施設整備においては、立地や用途を考慮したうえで天然芝のみならず人工芝導入に向けた検討を行うこと。

2. 森林資源の活用について

全国的に里山は放置され、水源涵養機能や土砂災害防止機能の低下、鳥獣被害などの様々な問題が生じている。長野県安曇野市里山再生計画では、その問題解決に向け、市民、事業者、森林所有者が主体となり、行政と連携した活動により里山の再生を目指している。具体的には、マツタケの復活を目指した赤松林の整備や初心者向けの薪づくり講習、市民が独自にグループを作り交代でサルなどの追い払いを実施していた。

本町においても、森林資源の整備と活用は重要課題であり、薪やペレットの利用促進や木材の活用、また鳥獣被害の対策についても町民に理解と協力を広く求めなければならない。

そこで、以下について提言する。

- (1) 森林整備事業や鳥獣被害対策においては、関係人口の増加を図ることが重要であることから、町民が楽しみながら学び集う参加型イベントの開催を検討すること。
- (2) 主伐・再造林を進めるため、ペレットストーブの長所や設置にともなう補助金等の PR を十分に行うこと。また、町施設への導入および町内事業者等への導入の働きかけを積極的に進めること。

3. 町文化財を活用した観光拡大について

新潟県十日町市で開催されている大地の芸術祭は、広大な里山を舞台に 200 の集落を手掛かりに作品を散在・点在させ、現代の合理化、・効率化の対極として徹底的な非効率化を試みている。しかし、それによりアートを道しるべに里山を巡り、里山のすばらしさを感じられる作品となっている。

本町には数々の文化財、伝統ある建造物等が広く点在し四季折々の魅力を引き出しており、それら観光遺産を道しるべに一年を通して回遊することができる。

そこで、以下について提言する。

- (1) 町のイベント（あやめ祭り・ワインフェス・お茶会等）会場に観光遺産のフォトパネルや移動可能な文化財を展示し、来場者への観光誘導を図ること。
- (2) 会津三十三観音などを利用したスタンプラリーを実施し、観光客が広く本町を回遊できる仕組み作りを進めること。

4. 産業の活性化と若者への魅力発信について

新潟県十日町市「まちの産業発見塾」は、地域の中学生・高校生を対象に、地域を支える産業や企業について「知る場」「理解する場」「体験する場」を設けることで、地元について学ぶとともに、将来的な就業意識の醸成を図り、人材確保の促進につなげる活動として、人口減少問題、若者の流出に対する改善策として成果をあげている。

本町においても、また、広域的に見ても若者の流出は課題であり、同様の企画を広域的に進めることで効果を生み出せると考える。

そこで、以下について提言する。

- (1) 同様の取り組みは会津管内の他自治体でも行われているため、情報収集等を積極的に行うこと。
- (2) 若者流出防止に対する有効な事業となり得る事から、本町のみではなく近隣市町村との連携を図った広域的な取り組みを検討すること。